

平成29年度公民館ハイク〈尾瀬ヶ原〉(1、405m)



平成29年9月24日(日)秋晴れの下、黒羽地区自治公民館連絡協議会主催の尾瀬ハイキングが開催される。この尾瀬という呼び名は、安永3年(1774年)の『上野国史』に初めて使われたらしい。それまでは「小瀬」と表記していたようだ。(会津風土記、1666年)いずれにしても国境にある沼地を表現したものとされている。

一般参加者8名、事務局5名、そして我が黒羽山の会11名の総勢24名である。一般参加者が少ないのは大変残念であるが、任された以上会としても責任をもって取組む。会員は5時30分黒羽支所前へ集合し事前打ち合わせ。6時には参加者全

員が揃って出発となる。黒羽山の会の植竹会長より「登山に大切な睡眠、ゴミの持ち帰り、時間を守る」三点について話があり、続いて連絡協議会長原田さんからは、「尾瀬の自然を満喫しましょう」と挨拶がある。紅葉シーズン前、然したる車の渋滞もなく塩原渓谷に沿って走り、国道400号線を南会津方面へと向かって行く。7時20分、田島の道の駅へ、ここで10分間のトイレ休憩。コスモス・シユウメイギクの生け花



に和み、気温は13度だが、ここの水の冷たさに気分も高揚してくる。檜枝岐村を抜けて御池駐車場へ予定どおり9時に着く。シャトルバス待ちの時間に、会費の徴収や班のゼッケンが配られる。9時25分バスに乗り込むと少々混み合っていた。くねくねした山道をバスは沼山峠を目指してひた走る。

沼山峠到着後、山のトイレ





「アーツー」と大歓声が上がる。澄み渡った青空、尾瀬沼と草紅

『森林セラピーの楽しみ方……。それぞれの森林散策を楽しむ中で、時折立ち止まり四季折々の景観や鳥の囀り、樹木の香りや涼しいそよ風、そして木漏れ日など森林を丸ごと感じて欲しいものです。』

(9月25日の下野新聞から抜粋)

しを拝借。いよいよ本日の尾瀬ハイキングの開始。二班に分かれて出発です。登り初めから上り坂の階段が続く。ブナの原生林の中を歩き進むと真っ赤ウルシが目にとまる。足元のゴゼンタチバナの赤い実、ルリシジミに癒やされる。

10時10分、展望台にて小休止。

10時40分、小淵沢田代分岐に差し掛かった頃、眼前に広がる景色に「ワ

葉の絶妙なコントラスト。更に木道を突き進んで行くと、燧ヶ岳の柴安岳・俎岳の双耳峰を仰ぎ見て、大江湿原の大パノラマに心揺さぶられる。尾瀬の優しい風に吹かれながら来て良かったと感じる。



長蔵小屋の前で

全員勢揃い

11時10分

長蔵小屋に辿り着くと既に多くの登山者で賑わっていて、ランチの看板や窓際に熊の玩具に旅情を感じる。昼食は木チップが敷き詰められた無料休憩所で。シヨウガ・キュウリの漬け物、新栗の渋皮煮梨やミカンの差し入れをご馳走になる。昼食後は、沼の畔を三々五々散策し売店で買い物を楽しむこともできた。トイレは1回1



本日参加の山の会のメンバー一同

〇〇円のチップ制で、日本の緑や国有林尾瀬の自然保護に還元されるそうです。  
 今回出会えた花は、ゴゼンタチバナ・シラタマノキ・ヤマハハコ・オヤマリンドウ・マイルスソウ・トリアシシヨウマ・ワレモコソウ・ウメバチソウ等々流石は尾瀬ですね。  
 長蔵小屋を12時30分出発し、沼山峠14時。そしてまたシャトルバスに乗り御池に14時40分着。後は一路黒羽支所を目指す。到着は17時45分。予定より30分早く帰ってきました。



こちらは ホット一息



た。これは、参加したメンバーの足並みが揃っていたこと、統率された行動ができたこと、スタッフの動きが良かったことが挙げられると思います。公民館の役員の皆さんお世話になりました。

(大沼 記)



○とき 平成29年9月24日(日)  
 ○ところ 尾瀬ヶ原  
 ○てんき 晴れ  
 ○参加者 植竹、薄井、折橋、市村、  
 佐藤、頼高、大野、大沼、  
 坂本、久松、鴛巢  
 +8名(一般)  
 +5名(事務局)  
 総勢 24名

○コースタイム  
 黒羽支所＝御池 P＝沼山峠－長蔵小屋(昼食)－沼山峠＝御池 P＝黒羽支所  
 06:00 09:00 09:30 11:30~12:30 14:00 14:40 17:45



